

名誉会員、功労章受章者

伊勢田哲也先生のご逝去を悼む

本学会名誉会員、長崎大学名誉教授の伊勢田哲也先生は、平成21年3月19日に永眠されました。享年83歳の安らかなご臨終であったとお聞きしております。

先生は、福岡県北九州市のご出身で、昭和26年3月九州大学工学部土木工学科をご卒業後、徳島県那賀川開発建設事務所にご奉職、昭和30年11月建設省九州地方建設局若戸橋出張所に着任され、以降6年半の間に同関門国道工事事務所、建設省中国四国地方建設局企画部、同道路部、同郷川工事事務所長を歴任されました。昭和37年5月より建設省土木研究所企画室長、同千葉支所機械施工部施工研究室長を務められ、地盤沈下や道路土工などの現場に密着した土木施工の研究を精力的に展開されました。昭和47年4月長崎大学に教授として迎えられ、19年間工学部を代表する教授として活躍され、平成3年3月停年退官されました。

先生は増設初期の長崎大学工学部土木工学科に着任され、大学院博士課程海洋生産科学研究科の設立に尽力され、学科と大学院の整備・充実に尽力されました。豊富な実務経験と卓越した教育・研究理念に基づき、学部・大学院学生の教育・研究指導に当たられ、かつその名講義によって学生諸氏に強い影響を与えられました。

研究面は多岐にわたりますが、主として防災や軟弱地盤対策工に関する優れた論文を数多く発表しておられます。中でも、昭和57年7月長崎豪雨災害において、被災後ただちに学部横断組織として長崎大学学術調査団を結成され、団長として、甚大な災害に対して科学的な考察を加え、3ヵ月の短期間で報告書をまとめられました。

また、長崎豪雨災害では緩斜面の崩壊例が多かったことに着目し着手された、緩斜面の崩壊機構の解明と降雨の土中浸透速度に関するご研究の成果は、土質工学会論文報告集、自然災害科学誌その他に相次いで掲載され、いくつかの重要な知見を防災行政者に提供し、かつ、斜面災害の予知に有効なものと高く評価されています。

一方、軟弱地盤対策工に関する研究では、DJM工法、パイルネット工法など施工法のみが先行し、その設計法が定まっていない工法について鋭意研究を進め、合理的な設計法を提案するなど、諫早平野、佐賀平野など地域が抱える問題の解決に多大な成果を上げられました。

以上のように、先生のご研究は、斜面災害の予知、軟弱地盤対策工の合理的な設計法の提案など、事象の機構を的確に把握し、緻密な実験、解析によりそれを検証し、実用に供する姿勢で一貫しており、学術論文や各種学会におけるご発表は各方面において高い評価を受けています。

著作には、「道路建設講座第3巻・道路土工（山海堂）」、「新版土木施工（朝倉書店）」、「建設機械（理工学社）」などがあり、いずれも道路土工、土木施工、建設機械を初めて体系的に記述された名著としての誉れ高い著作ばかりです。

一方、先生は長崎大学において各種委員会委員や評議員を務めるなど、長崎大学の運営に積極的に参画し、その発展に多大の貢献をされました。また、建設省、通産省、運輸省、国土庁、文部省の学術関係専門委員、長崎県、長崎市、諫早市等の各種専門委員会の委員・委員長を数多く務められ、専門的立場からの適切な指導、助言により、国の行政、学術施策および地域の発展に多大な貢献をされました。

学外における学会活動もめざましく、土木学会、土質工学会の各種委員を歴任され、昭和62年度から平成2年度にかけて、土質工学会九州支部副支部長を務められ、学会の発展に寄与されました。これらの貢献に対し、平成元年、土質工学会功労章を授与され、平成20年には地盤工学会名誉会員に推薦されました。

また、先生はお酒とゴルフをこよなく愛されました。先生のお酒とゴルフに関する心温まる数々のエピソードが懐かしく思い出されます。

ここに在りし日の先生のご活躍とご温容を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。



(棚橋由彦 長崎大学大学院生産科学研究科教授 本学会員)
社団法人 地盤工学会